

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績	0件	1	D	職員数が少ないため実施出来ない
					館設定の目標	0件			
		2	収蔵資料の受入	今年度実績	275点	1	年度ごとの受託資料の更新数が異なるため		
				昨年度実績	803点				
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出(外部機関等展示等)	今年度実績	4件	2	B	
					昨年度実績	6件			
			4	館内利用(学術調査等)	今年度実績	9件	4		
					昨年度実績	1件			
		5	著作物資料への利用(出版物掲載等)	今年度実績	50件	4	デジタル画像の利用が増加。		
				昨年度実績	34件				
		調査研究	6	調査事案件数	件数	今年度実績	13件		4
						昨年度実績	10件		
7	共同調査事案件数		件数	今年度実績	0件	1			
				昨年度実績	0件				
8	研究成果の公開状況		論文研究報告	今年度実績	0件	1			
				昨年度実績	0件				
大項目 I の総合評価(A~E)							C		
博物館コメント	分館の職員数では、調査・研究活動に時間を割くことが難しい。企画展など展示事業に基づく調査が主となる。デジタル化すべき資料は写真資料を含め長年蓄積したものがある。(点数は今後調査)平成28年以降、大正・昭和の写真資料を活用した展覧会を企画することで、デジタル化事業を進める。								
有識者コメント	【石川】観光的来館も多いようだが、博物館機能を発揮していくことを念頭に置いて、資料整理活用を考えてほしい。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	今年度実績	104577人	4	B
						昨年度実績	104134人		
			2	企画展(事業名) 「甲冑とその時代～甲冑の様式を中心に～」	入館者数	今年度実績	16415人	3	
						昨年度実績	18003人		
			3	収蔵資料展・特別公開 「武家の意匠」 「江戸風俗図屏風・大薙刀」	入館者数	今年度実績	55784人	3	
						昨年度実績	56961人		
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	今年度実績	3回	4	A
						昨年度実績	3回		
						5	企画展(事業名) 「甲冑とその時代～甲冑の様式を中心に～」		
昨年度実績	1回								
6	収蔵資料展・特別公開 「武家の意匠」 「江戸風俗図屏風・大薙刀」	実施回数	今年度実績	5回	4				
			昨年度実績	5回					
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度 「とっても良かった」 +「良かった」の割合	今年度実績		4	A	未調査	
				今年度実績	83%			未調査	
				今年度実績				未調査	
大項目IIの総合評価(A～E)								A	
博物館コメント	平成26年度に入館者数が10万人を突破し、27年度も維持した。年間を通して有料入館者数が増加傾向にある。(企画展は入館者数は減少したが有料入館者数は増加) 企画展の満足度が63%(H26)から83%にアップしたのは、展示のわかりやすさとともに「地方館を超越するよい資料が見られた」(アンケート)との感想も一因と思われる。								
有識者コメント									
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	今年度実績	104%	4	B
						昨年度実績	100%		
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	今年度実績	0件	1	
						昨年度実績	0件		
大項目IIIの総合評価(A～E)								B	
博物館コメント	昨年度に比べ有料入館者数が増加している。								
有識者コメント	【石川】地域の全ての観光案内において、大多喜城が中心にあり、PR高価は高い。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値				
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	今年度実績	12回	4	B	
					アップ数	昨年度実績	12回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	41553件	4		
					アクセス数	昨年度実績	36383件			
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	17件	2		
						昨年度実績	26件			
大項目Ⅲの総合評価(A~E)							B			
博物館コメント	HPの更新数は昨年度並みであるが、企画展期間中、ほぼ毎日、ツイッターで展示資料の情報発信を行った。このことで、HPへのアクセス数も増加したと思われる。また、企画展来館者も自らのツイッターで企画展の感想をツイートしてくれた。このことも30代から50代の有料入館者世代が増加した一因と考えられる。									
有識者コメント										
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	36校	4	A	
					学校数	昨年度実績	27校			
			2	入館者数	入館者数	今年度実績	2014人	3		学級減等による減少
					入館者数	昨年度実績	2115人			
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	1452人	3		
		昨年度実績				1545人				
		4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	今年度実績	5校	4	市原市の学校が増加		
				学校数	昨年度実績	2校				
		5	利用者数	今年度実績	226人	4				
				昨年度実績	84人					
地域関係団体との連携	6	団体数	今年度実績	80団体	3					
			昨年度実績	96団体						
	7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	今年度実績	80回	3				
利用回数			昨年度実績	96回						
8	利用者数	今年度実績	2566人	2	B					
		昨年度実績	3647人							
9	友の会活動	利用人数	今年度実績	人	-	友の会は廃止				
			昨年度実績	人						
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	216人	4					
			昨年度実績	197人						
大項目Ⅳの総合評価(A~E)							A			
博物館コメント	学習キット(甲冑・小袖・袴の試着)の活用を利用拡大の起爆剤として学校団体へアプローチをしている。学習キットの充実により、利用団体は着実に増えている。戦国期から江戸初期にかけて、歴史の一端を体験できる本学習キットは好評であり、「社会(歴史)科」2時間分の授業としてカリキュラムに位置付ける学校(教育委員会)も出てきている。本キットの利用はリピート率が高い。									
有識者コメント	【石川】有料入館者の増は、広報面の向上と地域の観光力が合致したものの。更なる広報活動を望む。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
VI	教育・普及活動	来館状況	1	博物館セミナー「大多喜を学ぶ」	参加者数	今年度実績	34人	4	A
					参加者数	昨年度実績	35人		
			2	博物館セミナー「古文書講座」	参加者数	今年度実績	37人	4	
					参加者数	昨年度実績	35人		
			3		参加者数	今年度実績	人		
					参加者数	昨年度実績	人		
			4	甲冑・小袖・袴の試着	参加者数	今年度実績	248人	4	
					参加者数	昨年度実績	228人		
		5	体験教室	参加者数	今年度実績	人	A		
				参加者数	昨年度実績	人			
		6		参加者数	今年度実績	人			
				参加者数	昨年度実績	人			
		7	企画展関連事業	参加者数	今年度実績	201人	4	A	講演会・茶席・その他
				参加者数	昨年度実績	144人			
		8		参加者数	今年度実績	人			
				参加者数	昨年度実績	人			
		総合的な満足度		9	講座	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%	
今年度実績	%								
今年度実績	%								
12	体験教室			満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%			
					今年度実績	%			
13	体験教室			満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%			
					今年度実績	%			
14		満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%					
			今年度実績	%					
15		満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%					
			今年度実績	%					
16		満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	%					
			今年度実績	%					
17	相談件数(来館、メール、電話等)	利用件数	今年度実績	件 件					
大項目Vの総合評価(A~E)							A		
博物館コメント	古文書講座は長年継続しており、受講生の古文書読解力も向上している。反面、参加者が固定化しており、新たな受講生の開拓が必要である。体験教室は、定員の倍以上の参加者があり、人気講座として定着した。企画展関連事業は企画展テーマに合わせて特色ある講座を実施している。								
有識者コメント									
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	今年度実績	人		A	
					今年度実績	人			
					今年度実績	人			
					今年度実績	人			
		2	教員等の研修	今年度実績	人				
				今年度実績	人				
3	職場体験	今年度実績	人						
		今年度実績	人						
4	インターシップ	今年度実績	人						
		今年度実績	人						
5	研修会の開催	実施回数	今年度実績	1回	4				
		実施回数	昨年度実績	1回					
6	防災訓練実施等	実施回数	今年度実績	2回	4				
		実施回数	昨年度実績	2回					
大項目VIIの総合評価(A~E)							A		
博物館コメント	博物館実習、インターンシップは受け入れをしていない。職場体験は、大多喜町内の学校が平成25年度まで実施をしていたが、学校事情(授業時間の確保のため、職業調べに移行)により現在は実施していない。研修会はコンプライアンスに関する研修を実施。防災訓練は避難誘導訓練と救命救急訓練を実施した。								
有識者コメント									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)	値の説明			
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	128団体	3	B
					昨年度実績	130団体		
			2		今年度実績	5056人	4	
					昨年度実績	4684人		
			3	外国人来館入込	今年度実績	25団体	2	
					昨年度実績	32団体		
			4		今年度実績	588人	2	
					昨年度実績	740人		
大項目Ⅷの総合評価(A~E)						B		
博物館コメント	平成25年度に圏央道市原・鶴舞ICが開通し、アクアライン経由での首都圏へのアクセスがよくなった。団体数は多少減少したが、入館者数は増加傾向にある。外国人の来館者は、年度によって多少増減があるが、ほぼ500人程度が来館している。							
有識者コメント								
総合評価(A~E) [各達成度の平均]						B		
総合評価と次年度への対策	<p>入館者数は平成26年度・27年度と10万人を突破した。(平成15年以来)圏央道開通などアクセスの向上は、マイカー利用の来館者数を増加させ、家族連れなど一般有料入館者数が伸び、入場料収入が増加した。歴史ブームも追い風となり、「武家の意匠」(収蔵資料展)「甲冑とその時代」(企画展)も好評であった。</p> <p>次年度への対策として、以下の4点を検討したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 当館の特色を生かした事業の進展(中近世資料を収蔵する歴史博物館、学習キット「甲冑・小袖・袴の試着」の活用等) 2) 城下町大多喜の観光資源と地域連携事業の促進(行政・観光施設・NPO・町民との事業協力) 3) 積極的な情報発信(HPの更新回数が増など) 4) 防災として避難誘導訓練などソフト面の強化 							

【博物館評価に係る有識者意見】

<p>【石川】 知名度もあり、入館者増も努力の賜物で評価できる。鉄道ブームもあり、駅と城とのアクセスが整えば大幅な来館者増も期待できる。城の観光的魅力ばかりでなく、特徴、博物館らしさを加え、リピーター増も考えたい。</p> <p>【飯田】 入館者10万人超えは素晴らしいし分析もされており年度評価として「B」適当だと考えます。分析されている通り今やHPで情報発信しているとは言い難く、ツイッターなどのSNSを利用しなければ、お店は開いたがお客様誘客はしていない~と言う状態になるので、今後も効率的に利用⇒分析をして有効性を高めていくべきと思う。又、次年度の課題にあげている地域との連携が最重要。町との連携だけではなく更に周辺市町との連携が安定的に有料入場者を増やすことに繋がるのは間違いない。</p>
--

【博物館記入】

意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・H29企画展「なつかしの街並み」展に向けて、地域資料の調査、写真資料のデジタル化などを進めている。 ・学習キット(甲冑等の試着体験)の普及により、学校団体のリピーターは増えている。一般入館者のリピート率と満足度を上げるため、定期的な展示替えとともに、来館者の満足度の高い資料の展示を心掛ける。 ・来館者の多くが情報機器を利用している現在、情報の頻繁な更新は必須である。館の事業・資料・観光など来館者の関心を持つ情報を提供したい。(更新増⇒アクセス数増) ・大多喜町との連携は継続しているが、他の市町村とは十分な連携はない。また、いすみ鉄道、観光協会などと事業協力を進める(イベントへの参加するなど)ことで、具体的な地域連携の方法を考えていきたい。
--------	---